

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

## 第 5 期生 活動開始！！ 「第 3 2 回民俗芸能大会」 をお手伝い

「♪私の紅い前掛けは、あの人の情けの色で染めた色」(ぼうち唄) …こんな情緒のある歌詞を独特の抑揚で歌いながら、村人が共同作業で脱穀をする、そのような労働の中で男女の出会いもあつただろうと思い、昔の豊かな地域コミュニティーに感激しながら、私達の初の仕事である、第 32 回相模原市民俗芸能大会のお手伝いは、始まりました。

私の生まれは、下九沢。子供の頃 8 月下旬の御嶽神社の祭りには、小遣いを貰い、笛と太鼓の音に誘われ、エチレングスの灯りで照らされた、夜店に出かけ買い食いをするのが楽しみでした。

その頃も神社の獅子舞は知っていましたが、今回間近で観させていただき、その独特な手の動きや、激しい足の運び、よく現在までこのような振りが伝承されていたものだと、保存会の皆様のご苦労と、伝統民俗芸能のすばらしさを改めて感じました。

私達、文化財調査・普及員 5 期生は昨年 9 月から研修を始め、「文化財は地域の中で、人々の生活に関わりながら受け継がれてきたもの、貴重なものだからと隔離



受付の様子

するのではなく、地域の中で、人々の生活に関わりながら守ってゆくの

が大切」という講師の教えに感動しつつ、厳しい研修を終えました。そして、

昨年の 12 月に、12 名の 5 期生が誕生し、今回の芸

### 目 次

- ① 第 5 期生 活動開始！！  
「第 3 2 回民俗芸能大会」をお手伝い
- ② 史跡勝坂遺跡のガイド  
・古道・地名班「東海道を行く その 2」
- ③ 津久井にある徳本念仏塔  
・コラム：田名向原遺跡案内・普及実行委員会
- ④ 文化財めぐりマップ紹介  
～境川流域（旧小山村）の散策①～  
・文化財保護課からのお知らせ

能大会のお手伝いが、初仕事となりました。

司会進行、受付、会場整理、舞台セッティングの補助など、分担して初仕事を受け持ちました。

特に司会進行は、萩原さんがタキシードに身を包み、4 時間あまりの長丁場を、軽妙洒脱に切り盛りし、客席から「萩原！」と声を掛けられるような、進行でした。また、受付には東日本大震災の支援募金箱も置かれ、大勢の方に募金に協力していただきました。

今回の大会では、津久井地区の芸能が発表されませんでした。今回は是非市域全体からの参加があるよう調査・普及員も努力しなければと、考えました。また、土窯搗き唄や、ぼうち唄、上溝シャンソン等の歌詞カードを観客の皆様に配布できるよう、お手伝いできたらとも思いました。

今回が、私達には初めての仕事でしたが、参加された団体の方々の熱演と、観客の皆様の拍手に支えられて、無事終了することが出来ました、ありがとうございました。

5 期生、12 名は調査・普及員としては歩み始めたばかりですが、心意気だけは先輩の皆様に負けないよう、これからも頑張っ

てゆきたいと思っております、どうぞよろしくお願

い致します。  
(第 5 期生 久保田)

## 史跡勝坂遺跡のガイド

昨年「勝坂遺跡活用実行委員会」が6月から準備期間を経て8月25日に設立されました。

組織立ち上げ2週間後の9月11日(日)、JR相武台下駅から勝坂遺跡公園までの「史跡探訪」(委員が分担してガイド)を皮切りに活動を始めました。

史跡ガイド活動は、9月から月1回(第2日曜日)午前の「遺跡普及事業活動」後、午後3時30分まで行っています。田名向原遺跡ガイドと異なる点は、遺跡公園内に照葉樹林等があることです。「文化財調査・普及員」はどちらかといえば歴史的遺跡や文化遺産に関わる機会が多くありましたが、自然に関わる機会はあまり無かったように思います。

月1回の研修では、公園内の「照葉樹林・ホトケドジョウ・有<sup>ある</sup>鹿神社」や地域内の「旧中村家住宅、石楯尾神社、勝源寺」についても説明を受けてきました。また、管理棟を会場に行われる

市民向け講座もガイドをする上での貴重な研修の場となっています。

田名向原遺跡とちが公園

園内にあるのは復元された竪穴住居2棟・敷石住居跡・縄文生活林で、他は草原が広がっているだけなので、ガイドの仕方も工夫が必要です。

田名向原遺跡ガイド実行委員会から「遺跡案内」の幟旗を分けてもらい活動を始めましたが、ガイドがいること自体殆ど知られていません。とりあえず、月1回の市民向け講座参加者へ向けたアピールを心がけながらやっていきたいと思っています。

(勝坂遺跡公園活用実行委員 千葉)



復元住居(土葺き)

## 古道・地名班パートⅢ「東海道を行く その2」～毎月第一火曜日実施

3月6日(火)は朝、雨が降っていましたが



遊行寺本堂前で記念撮影

昼頃より晴れると云う事で古道班として76回目の活動日となりました。

新しく5期生1名が加わり、体調不良

の1名が欠席しましたが計11名が小田急線藤沢駅に集合しました。

この「東海道を行く」は平成21年7月7日の七夕の日に東京日本橋をスタートし、地形図を中心にその地域の観光マップを頼りに神社仏閣・名所旧跡を巡っています。「さねさし15号」では、品川宿等の中間報告をしました。

今回も資料収集のため、まず藤沢市役所に寄りました。そこで珍しい光景、放射能測定現場に遭遇しました。値は0.07マイクロシーベルトで通常の値<sup>かんのういん</sup>とのことでした。

その後、感応院、山王神社、諏訪神社、そし

て歌舞伎などで知られる小栗判官・照手姫ゆかりの寺、長生院(別名小栗堂)などを巡り、昼前本日のメイン遊行寺(藤澤山無量光院清浄光寺)を参拝しました。午後は石仏・石造物が多いと云われている柄沢神社を訪ねました。柄沢神社は土地区割事業で一年半程前に近くの場所に移転されていきました。この様に文化財等も時代の流れに沿って変化していることを強く感じさせられました。



柄沢神社の石仏

それから隆昌院、船玉神社、白山神社、庚申堂を見学して藤沢駅に戻りました。

今回は相模原市の文化財とゆかりのある遊行寺、長生院を訪ねた事が大変勉強になり印象的でした。

次回は藤沢宿の残り半分を散策し、その後江ノ島にも足を延ばし東海道及びその近辺の文化・民俗に触れる楽しいゆったりとした旅を続けたいと思っています。(古道班 光廣)

## とくほん 津久井にある徳本念仏塔



三井の徳本念仏塔

津久井地域に点在する10基の念仏塔が、市登録有形民俗文化財に新規に登録されました。これらは、江戸時代後期に念仏を広めた浄土宗の

僧徳本上人から授かった六字名号札ろくじみょうごうざを基に造立された念仏塔です。

そこで私たち津久井班は、文化財保護課職員の案内で場所確認を兼ねて調査を行いました。10基の徳本念仏塔は、津久井湖畔で「手篤く保護されているもの」、自治会館の脇で「人々

に見守られているもの」、道路整備等で「移転を余儀なくされたもの」、また山あいの地で「誇らしげに立つもの」と、状態は様々です。しかし、独特の書体と花押を彫りこんだ念仏塔には、当時の人々の強い思いが溢れています。

これらの徳本念仏塔は文政2年(1819)から文政6年(1823)にかけて、集中して造立されています。徳本上人は文政元年(1818)に死去していますから、没後2、3年から数年間に念仏塔造立の活動の広がりが見て取れます。

10基の徳本念仏塔の中で特に印象深い1基は、三井の念仏塔で、高さ2.9mに及ぶ堂々たる姿です。是非足を運んでみてください。津久井地域にはまだ他にたくさんの石造物があり、調査を続けていきたいと思えます。

(津久井班 久能)

### コラム

文化財調査・普及員有志の実行委員会が支える

田名向原遺跡案内・普及実行委員

### 津久井地域の徳本念仏塔

(平成23年4月1日登録)

寸沢嵐 沼本の徳本念仏塔	寸沢嵐 134-1	文政2年
中野友林寺の徳本念仏塔	中野 905-3	文政2年
三井の徳本念仏塔	三井 547	文政2年
久保沢観音堂の徳本念仏塔	久保沢 2-2067-1	文政3年
原宿地藏堂の徳本念仏塔	原宿 4-2587-6	文政3年
小倉宮原の徳本念仏塔	小倉 371	文政3年
谷ヶ原大正寺の徳本念仏塔	谷ヶ原 1-894-1	文政4年
太井大蔵寺の徳本念仏塔	太井 558	文政4年
中野清雲庵の徳本念仏塔	中野 360-1	文政4年
小松薬師堂の徳本念仏塔	広田 3974-2	文政6年

### 門扉に大看板

田名向原遺跡公園の横幅6メートルある正面入口門扉に「史跡 田名向原遺跡公園」と看板を掲げました。



実行委員会の普及事業の一環として設置したものです。

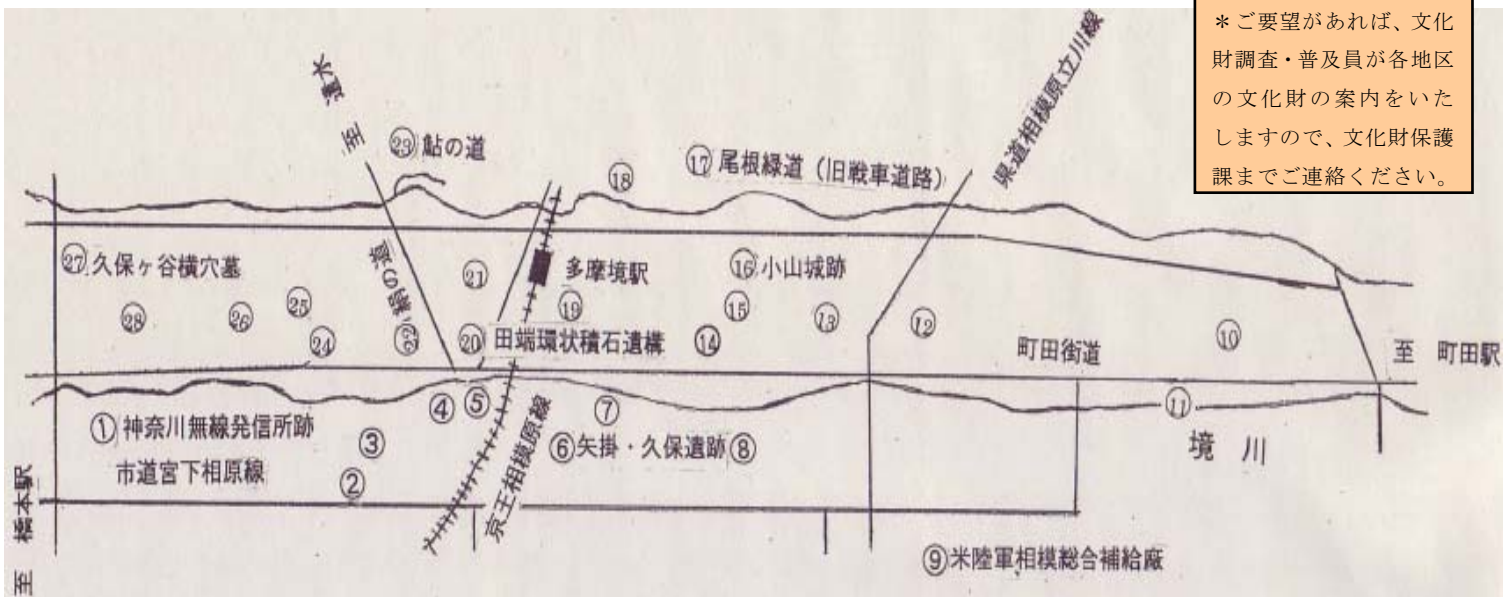
開園開設以来私たちは、市の委託を受ける形でこの史跡公園の意義と存在を広く市民に伝えようとガイドを続けてきたところですが、その成果は微々たるものにとどまっているのが実情です。なにしろ公園のごく近所の住人にさえ「こんなのできたの」と驚かれるくらいですから、公園の知名度、認知度はまだまだです。

そこで、道行く人々や通る車からもよく見える高さと大きさの看板を付けたら遺跡公園の存在をアピールできると考え取付けました。

(田名向原遺跡公園案内普及実行委員会 畠山)

# 境川流域 (旧小山村) の散策①

文化財めぐりマップ 紹介コーナー



\*ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

境川流域(上流)の旧小山村を見て歩きます。

小山村は、中世までは相模国でしたが、江戸時代の初期の検地により、国境を横山丘陵の尾根から境川(当時代は高座川(田倉川)と称していた)を境界とし、相模国と武蔵国とに別れ、現在に至ります。分村しても以前と変わらず交流は続き、相模国(相模原側)を日陰小山、武蔵国(町田側)を日向小山と称していました。今回は①～⑨の日陰小山(相模原側)を紹介します。

日陰小山(相模原)

- ①神奈川無線発信所跡 旧郵政省は昭和18年に陸海軍の気象・航空通信の暗号電文の打電用として開設、昭和21年に廃所。現在の宮上小学校。
- ②原家・小山家の長屋門 神奈川県内の昔の町並み百景に指定されています。建築年代は江戸時代末期。
- ③蓮乗院 新義真言宗、本尊は阿弥陀如来、創建は天文3年(1534)。市指定有形文化財「順席じゆんせき」があります。
- ④二十三夜塔 蓬萊橋の袂にあり、「橋の神様」、「足の神様」として二十三夜の月待講を

中心に広く、深く信仰されていました。蓬萊橋袂の境川で大山参りの旅人が「みそぎ」をしました。

- ⑤天縛皇神社 日陰小山の鎮守、天文元年(1532)創建、祭神は伊邪那岐命・伊邪那美命。
- ⑥矢掛・久保遺跡 旧石器・縄文・古墳・古代・近世の遺物が発掘されています。奈良から平安時代の「すずり」、「帯金具」、「瓦塔(ミニチュアの仏塔)片」等が発掘されているので、役人が居住していたかと思われます。
- ⑦大正橋石塔群 道路補修等により石塔が集められました。「六地藏・常夜燈・六面観音菩薩像他」
- ⑧蚕影神社・尼寺跡と石塔群 蓮乗院持ちの尼僧院跡。蚕影神社では昭和30年代まで毎年春祭りを開催。
- ⑨米陸軍相模総合補給廠 昭和13年旧日本陸軍相模陸軍造兵廠が開設。昭和20年米陸軍進駐、昭和24年米軍に接收され現在に至ります。

今回は、⑩～⑳の日向小山(町田側)を紹介します。(北部班 宮崎)

## 文化財保護課からのお知らせ

・企画展「田名塩田遺跡群とその時代」を博物館で開催中!(観覧無料):平成24年3月17日(土)～5月6日(日)  
速報展「さがみはら発掘最新情報」も同時開催し、市内の遺跡調査の成果を紹介しています。

\*文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは相模原市のホームページからダウンロードできます。

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371